



【自主 敬愛 勇健】～生徒も教師も生き生きと活動する学校～

＜北中の校歌に関係する皆様が来校されました＞

～当時から使われているグランドピアノは今も体育館で素敵な音色を響かせています～

紹介するのが遅くなってしまいましたが、4月の半ばに、本校の校歌作曲者である「川上 勝」氏の関係者（5名）がご来校されました。そのうちのお二人は、本校の校歌作曲者のご子息とのことでした。今は亡き父親の足跡を辿るべく、長年教鞭をとった学校の様子を見たいとの願いを持ってのご訪問でした。また、お一人は、昭和35年度の第7回卒業生（依田川中学校時代）であり、当時の校舎や学校の周りの様子を懐かしく語られていました。（※本校の創立50周年記念誌に、その当時の卒業写真があり、ご自身が写っていることを確認されていました）

ご来校された皆様は、現在は関東にお住まいとのことでしたが、遠くまで来た甲斐があったと感激して帰られました。僅か1時間程のご訪問でしたが、色々なお話を伺うことができ、とても貴重な機会となりました。教えていただいた下記のことは、生徒の皆さんにも知っておいてほしい内容です。ぜひ心に留めていてもらいたいと思います。



○丸子北中の前身である依田・長瀬組合立依田川中学校の創立時に、音楽専任教師であった「川上 勝」氏が校歌を作曲し、その当時の生徒であった「白井豊子さん（昭和29年度第1回卒業生）」が作詞をしたこと。

○昭和30年に、川上氏が静岡県浜松市へ出向き、本校のためにグランドピアノを購入してきたこと。（自費で購入し、学校に寄贈）

○川上氏が購入したピアノは、今も本校の体育館で使われていること。

○川上氏は「長瀬音頭」も作曲しており、YouTubeに踊りや歌詞がアップされていること。

○関係者のお一人は、依田川中学校が創立される前の長瀬中学校で教鞭を取られていた方のご子息であること。

北中校歌の2番の歌詞に「つどいよる 五百の命」とあります。創立時は500名もの生徒が在籍し、生活していたということです。調べてみると、昭和37年度の「816名」が過去最多の生徒数でした。年々生徒数は減少し、今では、この三分の一の生徒数になってしまっています。今後も減っていったことを考えると淋しい気持ちになりますが、仕方ありません。

体育館にあるグランドピアノは、本校の宝物の一つとして、これからも大切に使い、保存していきたいと思います。（※後日、丁寧なお礼のお手紙をいただいています）

＜教育実習が終了しました＞ ～教員を目指す実習生をいつでもお待ちしております～

本校での教育実習生の3週間の実習が終わりました。私とのまとめの懇談会の中で、実習生は「自分の教育に対する考え方や視野が広がった」

「教職への希望がより強くなった」など、実習を通して得たことを笑顔で語ってくれました。学びの多くある有意義な実習になったことは、本校にとって大変うれしいことです。ぜひ、これから子どもたちの教育を担う立派な教員になってほしいと思います。教員を目指し、実習に来てくれる卒業生がこれからもっと多くなればと願っています。

※私も教育実習を経験していますが、教科指導担当の先生がとても厳しかったことを覚えています。私の場合は、指導担当の先生が二人いらして、毎日お二人から別々の時間にご指導をいただきました。指導の仕方や授業形態も異なっていたので、何が正しいのかが分からなくなり、困惑しているうちに実習が終わってしまいました。それぞれの先生のご指導のもと、まとめの授業も別々に行ったのが一番大変でした。しかしながら、お二人から学んだことは今も生きています。

